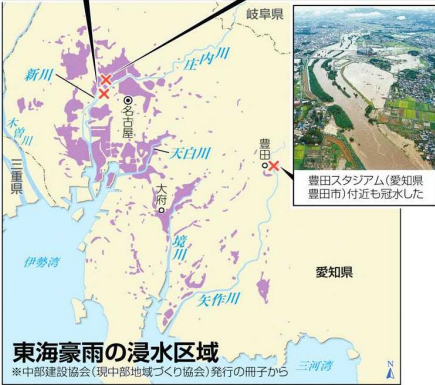
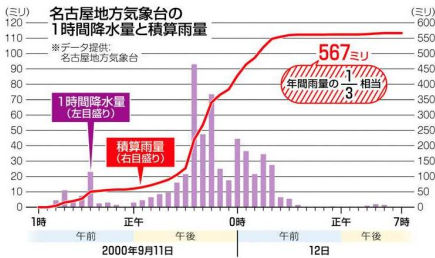


備える 3.11から

第179回 東海豪雨20年

防災気象情報 きめ細かく



東海豪雨 2000年9月11日から12日にかけて東海地方を襲った豪雨。名古屋では気象観測史上最高の時間雨量77.7を記録し、総雨量としては年間雨量の3分の1に当たる567.1に上った。名古屋市やその周辺の庄内川、新川、天白川などで堤防決壊や浸水被害などが発生。矢作川でも上流域では土石流などの土砂災害が、中下流域では河川氾濫や内水氾濫が起きた。

被災状況	死者(人)	負傷者(人)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	全壊・流失(戸)	半壊(戸)
愛知	7	107	277606	471154	14	113
岐阜	1	1	229	274	25	12
三重	1	1	4	35	-	-
静岡	-	2	69	428	2	5
長野	-	-	2	2	-	-
計	10	111	278160	473545	41	132

避難指示など 一方、避難に関しては五年に避難準備を新設。九年には、住民が取るべき行動を五段階で示した「警戒レベル」が導入された。市町村が発令する「避難指示」など

災害予測の技術進歩

「当時」は警報までしかなく、言葉の表現も「大雨」がなかった。過去の豪雨で、最も土砂災害の危険性が高かった。東海豪雨を受け、〇一年に水防法が改正され、それが国が管理する河川が対象となった。洪水予報も都道府県が管理する河川でも可能になった。豪雨で大きな被害が出た新川の予報は全国に先駆け、〇二年五月に始まった。

その後も各地で豪雨災害は頻発。それに合わせて防災気象情報も拡充されてきた。〇五年に土砂災害警戒情報、二三年に特別警戒の運用がスタート。一七年には、浸水害と洪水の発生リスクを地図上に五段階で色分けして表示する「危険度分布」が導入された。

避難への結び付けなお課題

防災気象情報の変化

(名古屋地方気象台の資料から)

2000年現在	2020年現在
3段階 3系統 8種類	5段階 4系統 26種類
注意警戒 (予告)	警戒レベル 1-5
注意 大雨注意報	1 大雨注意報
警戒 大雨警戒	2 大雨警戒
	3 大雨警戒
	4 大雨警戒
	5 大雨警戒

災害の危険度 ↓

避難準備と防災気象情報 一種類は増えたが、段階的にレベル化されたことにより、行動が取りやすくなった。東海豪雨時二段階、三系、八種類だった防災気象情報は現在、五段階、四系統、二六種類に増え、それが理解して行動に結び付けていくのは人間自らの命が守られることにつながる。今後の課題として、避難準備と防災気象情報の結び付けを強化する必要があると話している。

サバイバルキャンプ参加募集

地域防災を支援する避難生活体験プログラム「備える！中日サバイバルキャンプ」(中日新聞社主催)が10月3日、11月1日の1泊2日で、愛知県豊川市防災センターなどを会場に開かれる。対象は小学1年生から中学3年生までと、その保護者30組で参加者を募集している。

名古屋大の福和伸夫教授の講義を受けた後、ワークショップ形式で、段ボールシェルターやフェースシールドの作り方などを学ぶ。参加無料で、応募多数の場合は抽選。「備える！中日サバイバルキャンプ」のホームページから申し込む。問い合わせは中日新聞社社会事業部=電話052(221)0955=へ。

回は十月五日です。毎月第一日曜日に掲載予定。次



歴史に学ぶ 後世の警官へ126名の教訓

一〇〇〇年九月十一日から十二日に起きた東海豪雨。愛知県西枇杷島署の署長らに、豪雨が襲った時に浸水した水位の高さを示す浸水位置標がある。

東海豪雨は、新川の堤防が約百メートル決壊。名古屋西区内の西枇杷島(現清須市)が浸水した。約七千棟の住宅が浸水した。浸水位置標は、その記憶を後世の警官に伝えるため、当時の署長だった片岡和雄さんと、同署署長が、豪雨被害のすぐ後に設置した。床から高さ百二十センチの壁面に横線を引き、「東海豪雨 浸水時の浸水位置」と記している。

豪雨では、同署も一階が浸水。署員は出で無縁な姿。一階に避難したが、人事記録や金庫にあった資料約二百、駐車場に止まっていた自白以上のパトカーとバイクのほとんどが水に沈んだ。片岡さんは、当時の防災意識が低かった。常に災害への意識を高く持って職務に従事してほしいと強調する。

近年、各地では豪雨被害が頻発する。「有事の時に警察官は、番に引かれてきた」と力強く語る。当時を知らない署員も増える中、浸水位置標は「備え」への重要性を静かに訴えている。

種別: 通信部・牧野良孝

愛知・西枇杷島署